

網膜色素上皮の薬物誘発応答の開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-15 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00065829

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



網膜色素上皮の薬物誘発応答の開発

Research Project

All

Project/Area Number

08771471

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Ophthalmology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

浅井 宏志 金沢大学, 医学部, 助手 (40231865)

Project Period (FY)

1996

Project Status

Completed (Fiscal Year 1996)

Budget Amount *help

¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Fiscal Year 1996: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000)

Keywords

Ca拮抗剤 / Ca拮抗剤応答 / 標本を挟む電位差 / 眼球常存電位 / 頸動脈圧迫

Research Abstract

Ca拮抗剤によってヒト眼球常存電位(以下SP)が変化することを見出し、この応答をCa拮抗剤応答と命名した。Ca拮抗剤応答が網膜色素上皮(以下RPE)層に対するCa拮抗剤の直接作用によるかまたはCa拮抗剤による眼内血行動態の変化を介した間接作用によるのかを検討した。

まずウサギ神経網膜-RPE-脈絡膜標本を室温下にてUssing型灌流装置に装置し、SPの発生母体である標本を挟む電位差(以下TTP)に及ぼすCa拮抗剤の影響を調べた。Ca拮抗剤(ニカルジピン5mg/l)を含む溶液の灌流によってTTPは変化しなかった。次にウサギにニカルジピン(0.1mg/kg)を静脈内注入してCa拮抗剤応答と大腿動脈圧の時間経過を比較し、さらに頸動脈を圧迫して網脈絡膜血流を低下させたさいのSPの変化を調べた。Ca拮抗剤応答の時間経過は大腿動脈圧低下のそれにほぼ一致し、頸動脈の圧迫によりSPは増大し、開放によりSPは回復した。

以上よりCa拮抗剤応答はCa拮抗剤のRPE層に対する直接作用ではなく、Ca拮抗剤による循環動態の変化に対するRPE層の応答である可能性が高いことが判明した。Ca拮抗剤応答には個体差が大きいことがこの応答を眼内血行動態の異常を検出するための検査として用いるさいに問題になると考えられる。

Report (1 results)

1996 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-08771471/>

Published: 1996-03-31 Modified: 2016-04-21